

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291100077		
法人名	有限会社 在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホームふれあい静岡	ユニット名	1F
所在地	静岡県沼津市獅子浜111-1		
自己評価作成日	平成25年2月26日	評価結果市町村受理日	平成25年4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2012_022_kan=true&JivsvosvoCd=2291100077-00&PrefCd=22&VersionCd=

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成25年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ケアプランに沿ったケアが出来るように、個別にて利用者の希望をスタッフが情報収集し、共有する事により、その方にあった支援として散歩、買い物、ドライブなどの外出を積極的に行っている。また、日々の生活の中で、利用者一人ひとりの生活歴や残存能力を生かし、園芸、家庭菜園などの支援も行っている。施設内だけではなく、屋外までの広い視野で行うように心がけ、毎月の行事は季節に添った計画や地域のイベントの参加など、ご家族のご協力も頂き、行事を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

まず、利用者が元気で活動的であることがホームの第一印象である。それは利用者同士の会話や居室の様子、また個性的な服装からも覗えた。職員が一人ひとりの個別の暮らしに対応すべく希望や可能性を探り、支援の在り方を検討・実践した成果と思われる。また、地域小学校との交流において学校からの要請に応え、職員が子供たちに介護について複数回にわたり話す機会を持ったことは職員にとってプラスになったことに加え、地域貢献としても評価したい。「よりよい生活のために常に前向きに工夫し、地域参加を楽しみ、声を掛け合う明るい雰囲気」と家族がホームを評していたが全て視認できた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼の前に施設理念「みんな笑顔でいつもの暮らし」を職員全員で唱和しグループ理念は事務室、玄関、各フロアーに掲示し夕方の申し送りの際に唱和している。	管理者は、いつもと変わらないことの有難さ、普通でいられることの素晴らしさを謳いあげた理念実現のために折々に職員に意識付けを図っている。90%の実現を自負しているがホームの隅々にまで想いの跡が窺われる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々には進んで挨拶を交わし、なるべく地元のお店で買い物するようにしている。地域の祭典や掃除には利用者様と共に参加をしている。	地域や自治会への積極的なアプローチにより住民に関心を持ってもらい行き来出来るまでになっている。また小学校で職員が福祉について話をしたり児童が定期的に訪問する等相互にプラスとなる交流が続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元自治会の会議でグループホームの内容や目的、機能等をお話し、理解して頂けるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催しホームでの出来事や報告などを伝えるとともに、家族からの要望、意見をその後の運営に生かすように努めている。	定期的な開催で家族や地域包括支援センターや介護相談員に報告している。毎回直近の様子をDVDに収めて披露し、希望者にはダビングしてお渡しするなど出席できなかった家族にも見ていただけるよう取り組んでいる。	開催日を家族の参加しやすい日曜日とするため市職員や地域の方の参加が得られないが、曜日の変更により参加を求めホームの意義の理解や多様な意見の収集に活用願いたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは必要に応じて密接に連絡を取りながら運営している。	必要に応じて連絡をとっている。介護相談員は行事の際にも出席して理解と協力を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングを通じてスタッフ全員が身体拘束をしない事を理解し徹底している。管理者が事務所に在室中は玄関の施錠をしない様に心がけている。身体拘束ゼロ宣言を申請した。	昨年ゼロ宣言をしている。勉強会や研修で学び日々言葉の拘束等互いに注意しあっている。過去に拘束は無く、現在も拘束を必要とする利用者はいない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	悪い言葉使いや無視、介護放棄等も虐待である事を会議の中で話し合い業務に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業や成年後見制度について理解をふかめるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書面をゆっくりと読み合わせ、説明をしている。随時ご家族様からの問い合わせにも対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「ご意見箱を設置し、気軽に活用していただくように面会時には話している。また時間に余裕がある時は出来るだけ多く、話をさせて頂いている。	家族の面会は多く、その際に管理者は必ず話を聞く時間を作っており、その内容は各フロアで共有して支援に反映している。家族アンケートからは家族が一番のホームの理解者であることが窺える。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議や勉強会などで職員の意見や提案を反映する機会を設けている。その内容によっては社内の代表者会議に提案している。	フロア会議の際に職員から自主的な勉強会の提案があり資料づくりから講義までを継続的に行っている。話しやすい環境の中でベテランと新人が歩み寄ってサービスの向上に挑戦している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が行った職員の勤務状況の評価について代表者が管理者と面談をして公平に判定するようにし、向上心を持って働けるように職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月2回の事業所ミーティングや定期的な内部研修を行っている。外部研修を受講する意欲的な職員もいる。フロアごとの勉強会も始め、実技指導にも力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターや他の事業所との交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の生活歴を把握し、利用者本位のケアを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から性格、好みや生活ぶりについての情報を聞き、家庭での生活との継続性を重視して受入を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を急がれた場合、空室がない時は近隣施設またはその他のサービスを紹介しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯、掃除、調理等の作業は一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	積極的に行事に参加していただけるように心がけている。また、「おたより」で利用者の生活の様子をお知らせし、家族との一体感が失われないように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時に馴染みの場所へ立ち寄りたり、友人の来訪時に昔の話に耳を傾けるように心がけている。	地元の利用者には近所の方が遊びに来てきてくれたり、子供のころ奉仕に通った御用邸や若い頃登った峠に職員と再訪するなど一人ひとりの大切な人とのつながりや思い出が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者仲に合わせた席の検討や、散歩等へのお誘いをし少人数グループで編成をしコミュニケーションが図れる関係を作っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	1月25日に入院のまま退去となった方が1名発生致しました。その後の様子や体調などはお便りなどでお知らせしていきたいと思っております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意思に沿えるように、買い物、散歩、運動、レクリエーション等を実施している。	意思表示できる利用者が多いため、日常の会話の中で意向や希望を丁寧に聞いている。買物や散歩・ドライブ・運動・レクリエーション等は利用者の希望をできるだけ聞きながら実施している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様の他に、ご家族様からも生活歴やサービス利用歴を把握するように努め、スタッフに周知している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日同時間のバイタルチェックを行い、それぞれの利用者のケアプランに沿ってケアを行っている。体調の変化は記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンス、モニタリングでアイデアを出し合い、現状に即した介護計画としている。	毎月のカンファレンスで職員全員がアイデアを出し合い、家族の要望や利用者の思いも反映させた介護計画を作成し、3ヶ月に1回見直している。職員全員が計画を理解し、身近に置き毎日のケアを行うようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録することの大切さをスタッフに認識させている。また、1日2回の申し送りの際には、記録をよく確認することを徹底させ、記録の書き方の研修を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	関連事業(レンタル事業)の活用を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練の実施、行事へのボランティアの参加や、近隣商店での買い物等を通じて交流を図っている。また、自治会との交流をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診により医療連携を図っている。専門外医療については、関係医療機関を紹介して頂いている。	提携医の往診が月2回あり利用者全員がかかりつけ医とし、社内看護師の週1～2回の訪問もある。提携医は月2回以外にも必要時は往診が可能であり、24時間電話対応も可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	社内の看護師、協力医療機関の看護師と連携している。看護師から得た情報は常に現場に申し送り共有している。緊急時には24時間電話対応ができ体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関には常に利用者の状態についての情報を得ている。また、ご家族様との連絡も取りあっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様に終末期についての考えを伺いご希望に添えるよう医療との連携を図り体制を整えています。	終末期に向けた方針について、入居時に利用者や家族の意向を確認し「生前の事前確認書」を提出してもらい、急変時には再度「生前の事前確認書」の確認をしている。できるだけ希望に添えるように対応しており、看取りも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修で応急手当の方法を学び、通報の判断の周知徹底をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震・火災を想定した防災訓練を行っている。2ヶ月に1回災害用伝言ダイヤルとツイッターを用いた連絡訓練を行い、自火報に連動したメール配信サービスを利用し全職員に情報が共有できるようにしている。	年2回の防災訓練と2ヶ月に1回の連絡訓練を実施している。ホームの防災訓練時は地域にも連絡し婦人会会員の参加があり、地域防災訓練にも年2回参加し、地域防災組織や青年団とも連絡を取っている。	海岸に近い地域にあり、津波時の避難訓練も実施しているが、夜間対応の訓練が未実施であるので、これも含んだ綿密な災害対策を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室訪問のノック、羞恥心の尊重、目線にあった掛け声等を行っている。	利用者が人生の先輩であることを忘れずに、明るく和気あいあいの生活の中にも利用者の尊厳を大切に、一人ひとりの表情や目をみながら丁寧に介護している。介護計画等はスチールケース内に鍵をかけ保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中で思いをさりげなく伺い、実現を図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	臥床起床時間を決めず個々の生活リズムを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回の訪問理美容の利用をしている。実際利用者様と共に買い物に出かけ商品を選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立にできるだけ利用者様の希望を反映するようにしている。買い物、調理、片付け等一緒に行っている。	買い物や調理・配膳・下膳等できることは利用者が一緒にやっている。献立は利用者がスーパーのチラシを見て希望を出すことも多く、反映できるよう努力している。食器は利用者等の希望に沿ったものを使用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮するとともに、キザミ、トロミ、食器類にも気を配り、カロリーコントロールが必要な方には盛り付けの工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日口腔体操を行っている。また、食後は必ず口腔ケアの声掛けと見守り又は介助をさせていただく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの利用者様の排泄パターンを把握するように努めている。「できるだけトイレで排泄」を目標としている。	「できるだけトイレで排泄」を目標に、排泄チェック表等により排泄のパターンを把握し、利用者一人ひとりに、タイミングを見て声掛けしている。入居後に排泄レベルが向上した利用者も多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫、乳製品、水分の摂取や適度な運動を心掛けている。また、必要に応じて医師に相談し下剤でコントロールすることもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できるだけ利用者様の希望に沿って入浴して頂いている。冬季には干したみかんの皮、薔薇等を風呂に入れていく。	週2～3回、午後入浴が原則であるが、希望により毎日入浴や午前入浴を可能としている。入浴剤やみかんの皮・薔薇等を入れ楽しむこともある。入浴を拒む利用者には時刻をずらして声掛けし、入ってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	電気アンカの使用や室温の調整管理をし快適な環境作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が利用者の服薬している薬を理解し服薬して利用者様がその薬の効果を得られているかを日々観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本の好きな方の図書館通いの支援をしている。洗い物当番表を作成し利用者が順番にお手伝いをされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ぬか床の管理を利用者に任せている。天気の良い日には、散歩やドライブに出るようにしている。また、ご家族様との外出もされている。	天気の良い日は朝夕の散歩をする他、いちご狩り、花見・みかん狩り、日帰り温泉旅行・足湯・つるし雛見学・ポーリング・カラオケ等毎月数回、車を使ったバラエティに富んだ外出をしている。また、家族との外出を楽しむ利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スーパーやお店に職員が付き添い、買い物を楽しんでいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節のお便りや電話等にはできるだけ対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁への掲示物を季節に合わせて随時変えている。エアコンや加湿器などの空調設備を利用し居心地のよい空間づくりを心掛けている。	季節に合わせた節分や雛飾り・七夕・クリスマス等の飾りつけのほか、毎月1回の書道教室参加の利用者の作品や塗り絵を掲示している。入院帰りの利用者に「退院おめでとう」、誕生日を迎えた利用者に「誕生日おめでとう」の色紙メッセージを掲示し祝っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームにはソファを置き、団らんの場所とし、天気の良い日にはデッキに出て外気浴をしている。利用者仲に合わせて席の検討や、散歩等へのお誘いを少人数グループで編成をしコミュニケーションが図れる関係を作っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのものを持ち込んでいただき、居心地のよい生活を送っていただけるようにしている。	仏壇や位牌・テレビ・テーブル・椅子・時計等馴染みのものが持ち込まれていた。ミシン縫いが得意な利用者は、居室内にある自分のミシンで縫った作品を室内に飾っており、折鶴や塗り絵が飾られている居室もあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部にはなるべく障害物を置かないようにしている。また、スタッフと一緒に料理や食器洗いをしていただいている。自立入浴支援として滑り止めや手すりの設置をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291100077		
法人名	有限会社 在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホームふれあい静岡	ユニット名	2F
所在地	静岡県沼津市獅子浜111-1		
自己評価作成日	平成25年2月26日	評価結果市町村受理日	平成25年4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2012_022_kan=true&JivvosvoCd=2291100077-00&PrefCd=22&VersionCd=

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成25年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事の献立の希望を聞き、一緒に買い物に出かけたり、調理や片付けをしている。天気の良い日は、外に出て体操をしたり、散歩や買い物、ドライブ等で利用者と外出する機会を作っている。庭の花壇や畑の作物の実りの時期には、毎日の水やりが日課となり、その成長をみんなで楽しんでいる。入浴の好きな方の為に、日曜日以外はいつでも入れるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼の前に施設理念「みんな笑顔でいつもの暮らし」を職員全員で唱和しグループねんは。事務室、玄関、各フロアに掲示している。	※ 複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々には進んで挨拶を交わし、なるべく地元のお店で買い物するようにしている。地域の祭典や掃除には利用者と共に参加をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元自治会の会議でグループホームの内容や目的、機能等を話し、理解して頂けるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、運営推進会議を開催しホームでの出来事や報告などを伝えるとともに、家族からの要望、意見をその後の運営に活かすように努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは必要に応じて密接に連絡を取りながら運営している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングを通じてスタッフ全員が身体拘束しない事を理解し徹底している。管理者が事務室に在室中は玄関の施錠をしない様に心がけている。身体拘束ゼロ宣言を申請した。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	悪い言葉使いや無視、介護放棄等も虐待であることを会議の中で話し合い業務に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業や成年後見制度について理解をふかめるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書面をゆっくりと読み合わせ、説明をしている。随時ご家族様からの問い合わせにも対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「ご意見箱を」設置し、気軽に活用して頂くように面会時に話している。また時間の余裕がある時は出来るだけ多く、話をさせて頂いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア一会議や勉強会などで職員の意見や提案を反映する機会を設けている。その内容によっては社内の代表者会議に提案している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が行った職員の勤務状況の評価について代表者が管理者と面談して公平に判定するようにし、向上心をもって働けるようにし職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月2回の事業所ミーティングや定期的な内部研修を行っている。外部研修を受講する意欲的な職員もいる。フロアごとの勉強会も始め、実技指導にも力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターや他の事業所との交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の生活歴を把握し、帰宅願望の強い時にはスタッフとドライブへ出かけたりしている。ホームでの生活に馴染むまで職員が個別に対応し信頼関係を築いていき、利用者本位のケアを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様から性格、好みや生活ぶりについての情報を聞き、家庭での生活との継続性を重視して受け入れを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を急がれて空き室がない場合は、グループ内の施設や近隣の施設、またはその他のサービスを紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯、掃除、調理等の作業の中で、本人に出来る事を探し、職員と一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	積極的に行事に参加して頂けるように心がけている。また、「おたより」で利用者の生活の様子をお知らせし、家族との一体感が失われない様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時には馴染みの場所へ立ち寄ったり、友人や知人の訪問時に昔話に耳を傾けるように心掛けている。電話にてのやりとりもしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が一体となれるレクリエーションを探し提供している。また、利用者同士の関係に配慮した席の配置をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度は退居者が居ませんので特にありません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向に沿えるように、買い物、散歩、運動、レクリエーション等を実施している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の他に、ご家族からも生活歴やサービス利用歴を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日同時間のバイタルチェックを行い、それぞれの利用者のケアプランに沿ってケアを行っている。体調の変化等は記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンス、モニタリングでアイデアを出しあい、現状に即したその人らしい介護計画としている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録することの大切さをスタッフに認識させている。また、1日2回の申し送りの際には、記録をよく確認することを徹底させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常生活に必要な福祉用具を関連事業(レンタル事業)を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練の実施、行事へのボランティアの参加や、近隣の商店での買い物等を通じて交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診により医療関連を図るの看護師と連携している。看護師から得た情報は常に現状に申し送りし共有している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	社内の看護師、協力医療機関の看護師と連携している。看護師から得た情報は常に現場に申し送りし共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関からは毎月利用者の現状のついての情報を得ている。また、家族との連絡も取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族に終末期についての考えを伺いご希望に添えるよう医療との連携を図り体制を整えております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修で応急手当の方法を学んでいる。またホーム内でも独自の勉強会を行い情報の共有をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震・火災を想定した防災訓練を行っている。毎月1・15日は防災時の伝言ダイヤル訓練とツイッター訓練を職員全員参加にて行っている。地域の防災訓練には職員が必ず1名参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室訪問時のノック、羞恥心の尊重、目線に合った声掛け等を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別の時間をつくり会話をするようにし、利用者の気持ちを引き出すように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて、コミュニケーションをはかりレクリエーションへの参加を強制しない等利用者の希望を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性はなじみの美容室へ出掛けたり、スタッフとモーニングケアの時にその日の衣類を一緒に選んでいる。男性はヒゲソリなど毎日の整容を心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立にできるだけ利用者の希望を反映するようにしている。また、買い物から調理、片付けまで一緒に行っている。お肉の苦手な方には魚を提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス考慮すると共に、キザミ、トロミ、食器類にも気を配っている。水分表をつくり水分補給に心懸けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日口腔体操を行なっている。また、月2回協力歯科医院の往診があり、歯科衛生士から口腔ケアの指導を受けている。食後は必ず口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの利用者の排泄パターンを把握し、声掛け誘導に努めている。「最後までできるだけトイレでの排便」を目標としている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維、乳製品、水分の摂取や適度な運動を心がけている。また、必要に応じて下剤でコントロールすることもある。水分摂取の難しい方は手作りゼリーなどを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴回数や時間等については、できるだけ利用者の希望に沿っている。季節により、干したみかんの皮やユズなどを入れて楽しんで頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の運動を心がけ一人ひとりの習慣や体調に合わせて支援している。温かい飲み物や即浴なども心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の確認と個別の服薬一覧表を作り、薬の内容や用法を職員全員が周知するようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手作りのおやつ作りでは、各自の役割を決め、買い物から調理まで、職員と一緒に行う。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様にも参加して頂き、日帰りの温泉旅行やイチゴ狩りなどに出掛けている。また、ドライブを兼ねて、スタッフと一緒に足湯などにも出かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スーパーへ職員が付き添い、買い物を楽しんで頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節のおたよりや電話等には出来るだけ対応している。今年のお正月は、利用者様自筆の年賀状をご家族様に送った。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の換気や空調の管理等。証明の明るさに気を配り、季節の花を飾るように心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームにはソファを置き、自由にくつろいで頂き、団らんの場所として頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には出来るだけたくさんの馴染みの物を持ちこんで頂き、居心地のよい生活を送って頂けるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部にはなるべく障害物を置かないようにしている。また、利用者の能力に応じて、職員と一緒に掃除や食事の準備、片づけなどをしている。		